



# 危機的な状況にある小児科診療所の経営

城西大学経営学部教授 伊関友伸

## 危機的な状況に直面する 小児科診療所の経営

本年9月7日、公益社団法人日本小児科医学会は、「子どものかかりつけ医がいなくなる?! 日本の小児医療がピンチです!」という緊急メッセージを公表した。(図1)

緊急メッセージでは、新型コロナウイルスは、「子どもたちにとっては普通のカゼよりも軽い病気であることがほとんど」であることが、世界での経験で明らかになったものの、「わが子が感染することを恐れる当然の親心による受診控えによって子ども達や小児医療は深刻な影響を受けている」とする。

外来患者数の激減が続いていることで、全国の小児科診療所が経営危機に瀕していること、このままでは、わが国から身近な、かかりつけの小児科医が消えてしまうこと。さらに、地域から小児科医が減ってしまうと、小児救急、幼稚園・保育園医、学校医、乳幼児健診など地域の子どもたちへの医療保険行政

も回らなくなることを訴えている。

その上で、日本小児科医学会は国に向けて緊急支援の要望を提出したこと、保護者からも声を上げて、小児科医を応援することについて要望をしている。

## 大幅に減少した小児科患者数

なぜ小児科の患者が減少したか。さまざまな要因があると思われるが、何よりも3月から5月に掛けて、学校、幼稚園、保育園が休みとなり、子どもが新型コロナウイルスをはじめとする感染症に罹患する機会が激減した。その後も親などの子どもの感染症対策(手洗いの励行など)が継続されていることが大きいと思われる。

日本小児科医学会による全国400施設以上の小児科診療所経営実態調査では、3月、4月の外来患者数が前年比30%以上減少の診療所は68・5%、40%以上減少の診療所は47・5%。5月の外来患者数20%以上減少の診療所は90%、40%以上減少の診療所は

41%、60%以上減少の診療所は8・4%に達している。

小児の患者の減少に伴い、小児科診療所の収益は急激に悪化している。図2のように、診療報酬総額(診療所収入)は、3月がマイナス25・7%、4月がマイナス38・2%、5月がマイナス48・3%となっている。特に緊急事態宣言が延長された8都道府県ではマイナス59・3%に達しているという。小児科は全ての診療科の中で最も影響を受けており、8月になっても回復の兆しは表れていないという。閉院する小児科診療所も出始めているとされる。

## 病児保育所の運営にも影響

小児科診療所の経営危機により、病児保育にも影響が出ている。病児保育は、小児科診療所に併設されているところが多い。病児保育利用者が月間ゼロから数名の施設がほとんどで、収入が激減し、運営の継続が厳しくなってきた。そもそも病児保育

## 図1 公益社団法人日本小児科医会からの緊急メッセージ

子どものかかりつけ医がいなくなる？！

**緊急メッセージ 日本の小児医療がピンチです！**

2020年9月7日  
公益社団法人 日本小児科医会

2020年、新型コロナウイルスが人類を襲いました。

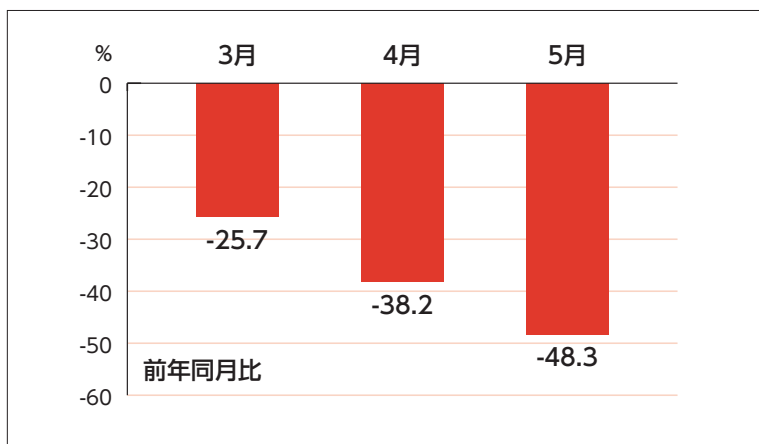
人類にとって幸運なことこの疫病は子どもたちにとっては普通のカゼよりも軽い病気であることがほとんどでした。これまでの世界での経験がこのことを証明しています。

しかし、わが子が感染することを恐れる当然の親心による受診控えによって子ども連や小児医療は深刻な影響を受けています。

日本小児科医会ホームページより引用

所は、かぜ（普通感冒）の子どもの保育の受け入れを行うのが仕事の中心となっている。かぜは、ライノウイルスや旧型コロナウイルス、RSウイルスなどウイルス（複数のウイルス感染の場合もあり）によってもたらされる。普通のかぜと違って子どもを受け入れたが、その子どもが新型コロナウイルス感染者であれば、他の子どもや保育士・看護師などといったスタッフへの感染の危険が生じる。病児保育室を通じて、新型コロナウイルスの感染が起されれば、病児保育室の一時閉室、濃厚接触者となるスタッフが

## 図2 急激に悪化する収益



日本小児科医会「小児科診療所経営実態調査」より作成

自宅での待機を行うことが必要となる。マスクが病児保育室での感染を報道する可能性もあり、風評被害による利用者の急減が起きる危険性もある。

新型コロナウイルスは病児保育の運営そのものを脅かしている。

このままではわが国の小児科診療所ネットワークが崩壊する

そもそも、医療機関は患者のピークに対応できるように体制を整えることが求めら

### 筆者プロフィール

#### 伊関友伸 (いせき ともとし)

1987年埼玉県入庁、県民総務課、大和町企画財政課長、県立病院課、社会福祉課、精神保健総合センターなどを経て、2004年城西大学経営学部准教授、2011年4月同教授。研究テーマは、行政評価、自治体病院の経営、保健・医療・福祉のマネジメント。総務省公立病院に関する財政措置のあり方等検討会委員など、数多くの国・地方自治体の委員等を務める。著書に「まちに病院を!」(岩波ブックレット)「自治体病院の歴史 住民医療の歩みとこれから」(三輪書店)などがある。

タイトルの「アスクレピオスの杖」とは、ギリシア神話に登場する名医アスクレピオスの持っていた蛇(ウスシヘビ)の巻きついた杖。医療・医術の象徴として世界的に広く用いられているシンボルマークである。

られる。新型コロナウイルスの影響で一時的に患者が減ったことにより、診療所が経営破綻すれば、将来の患者のピークに医療を提供できない事態に陥ることになる。患者が減って収入が減れば、その分だけ収入を補って小児科医療の提供を継続していく必要がある。診療報酬増額や補助金交付が必要であると考えられる。

病児保育は設置者が市町村であり、国と地方財源によって支えられている。その維持については、地方自治体の支援が必要であると考える。